

今は、総長と学長の祝辞がありました。総長先生や学長先生は、いわば司令官でありまして、いささか奥にいる人です。それに対して、まさに、今日入学の皆さんを迎え撃とうとしている、現場の担当者が、兵隊さんが、私たち教職員です。私たちは最良の布陣をしいて、皆さんをいつでも来いと待っているところです。皆さんも、元気いっぱい攻めてきて下さい。大いにバトルしましょう。そういう立場の一人として、お祝の挨拶をしたいと思います。

祝辞を述べるにあたって、言葉だけではなく、本当は、記念になるように、皆さん一人ひとりに、ハンカチ1枚と、ボールペン1本ずつ配りたいのですが、私の小遣いでは、ちょっと予算が足りませんでした。それでも気持ちの問題ですから、ハンカチとボールペンのつもりで、2つの話をさせてもらって、お祝のプレゼントにしたいと思います。

まず、ハンカチに代わる話。

大学も含めて、学校って何をやる場所かということです。一応は勉強するところだとなっている。でもこれは答案としては30点です。確かに勉強するところではあるのですが、集団で勉強するところだというのが正解です。勉強だけなら、自分で本を読んでもよい、お金があれば、先生に来てもらって一人だけで教わってもよい。でもそれは学校ではないのです。実際、小学校から今まで、学校に行ったら人が大勢いたでしょう。今日だって、勉強だけのところなら、こんなに大勢一緒に集まる必要はないのです。あるいは、本当は一人で一人の先生が教わるのが理想なのだが、それは高くつくから、団体割引をするのが学校だと思っている人もいられるかもしれませんが、そうではないのです。学校の価値は、3割は勉強、7割は集団でいろいろやるということにあるのです。

学校が集団の場所だとはどういうことでしょうか。

集団ですから、いろいろな人がいます。

すると、同じ講義を聞いても、その内容を、簡単に理解する人もいて、何度聞いても分からない人もいます。同じことを講義されても、そこから何を受け取るかが、どのように解釈するか、各自違います。いろいろなことについて、人によって意見も違います。集団の中にいると、そのことがよく分るので。他人の発言を聞いて、ああこういう理解もあるのかと分かる。また、時には、バカな質問や、発言をする学生がいる。でもそれが契機になって、先生が予定しなかった話をしたり、そこから、新鮮な話題が始まったりする。理解が広がるのです。とすれば、それは、バカな発言をした、その学生の功績です。こちらの方が変な秀才よりよっぽど役に立っている。こうして、いろいろな人がいて、いろいろな考え方があり得ること、その中で自分

はどのようなかということが分かってきます。それが学ぶということなのです。

それに反して、ひとりで学んでいると、比較する人がいないから、おれは天才ではないかなど勘違いする。また、一对一の授業では、正解しか習わないし、意見も自分のもの一つしかないから、自分中心に世界は回っているのではないかなど、これも勘違いします。

仮に50人の集団で勉強するとは、そこには、先生も含めて51人の人間がいる。それらが、互いに、発信したり、受け取ったりするのだから、一人の時の数倍の内容がそこに現れてくるわけです。そういう特性を生かさなければ学校ではありません。

もう一つ大切なことは、こうして人が集まれば、学校は、好むと好まざるとにかかわらず、集団生活になります。集団生活では、ルールに従うこともしなくてはいけない、他人と付き合いノーマルも必要です。そういうことを学んでいくのも、学校生活の重要な要素です。例えば、私は、武道系のクラブである少林寺拳法部の部長をやっていますが、見ていると、1年生のときの頼りない学生が、卒業時には立派に一人前になって挨拶していく、4年間の集団生活の訓練のたまものです。ひとりでこもっていたらそういうことは学べません。

学校はそういうところなのです。集団の中に自分を位置づけ、集団で生活していくルールと知恵を学ぶところです。このごろは、自分だけ勉強して成長すればよい、集団であることは邪魔だなど考えて、集団を避ける人が多いが、逆なのです。

ただこの中には、そういう集団生活が向かない、集団の中にはいたたまれないという人もいられるでしょう。しかし、そういう人にとっても学校が集団であることは救いになります。なぜなら、そういう場合は、集団の隅の方にじっと隠れていることができます。体格の良い人間の後ろに隠れていけば、向こうから見えませんが、かえって集団を避けて、一人になってしまうと、全部見通しになって、もっと辛くなります。集団がうまく機能していれば、そういう効果もあるのです。

次に、ボールペンに代わる話をします。

学校が集団生活だとして、それでは、自分も一員である大学という集団をよりよいものにするには、あるいは、こういう集団生活をうまくやっていくには、どういうことが大切かということなのです。

古い仏教の経典に四摂法ということが言っています。昔坊さんは団体生活をしていましたから、どうやったら、集団がうまくいくかとの研究をしていました。そのコツは4つあると言うのです。それを紹介します。布施、利行、愛語、同事の4つです。

まず、**布施**。布施とは、自分のものを無償で人にあげることです。そうするとよい人間関係がそこに生じる。例えば、となりの子がシャーペンの芯をきらしていた。1本あるいは折って半分でもよいからあげて下さい。仲良くなれる。それを、芯をきらしたのはおまえの準備が悪いのだろうなど言って、自分のペンを揺すって、こんなにあるぞなどと、ガチャガチャさせたりしたら、いい関係はできません。ものだけではなくて、情報についてもそうです。例えば、先輩から、A先生の試験問題について聞いた。どうですか、友達に教えますか。どんどん教えてやりなさい。そうすれば、自分だけ知っていたというしるめたさもなくなり、相手も喜び、人間関係はよくなります。それだけではありません。例えばこの場合、この情報を聞いた友人は、見返りに、彼が持っていたB先生の試験について情報を流してくれるでしょう。最初のA先生だけについての情報にB先生のもので付け加わります。情報は隠さないで、オープンにすることによって、価値が高まると言います。

次は、**利行**。利益になるような行いを無償でしなさいと言う意味です。ただし、利とは自分の利益でなく、他人の利益です。他人の利益になるような行いをせよ、そうすれば人間関係は良くなる。例えば、となりの人が、何か落としたりとします。拾ってあげなさいと言うことです。また、となりの人が通路に出ようとしたとします。足を少しよけて通してあげなさいと言うことです。すると互いにいい感じになります。それを、となりの人が通ろうという気配を見せたら、足を伸ばして、通さないようにする、あるいは急に足をあげて、ころばす、これではよい人間関係はできません。ただし、これは無償でしなければなりません。前を通ろうとした人を、足をよけて通して上げたのはよいが、通り終わってから、通り賃を100円、などと請求するというのはだめです。そうすると通ろうとした人は、不愉快になって、そんなら通らないよ、向こうを通るよ、向こうを通れば50円で済むから、等言って、安い方を通ります。これは、学校に市場原理が導入されたということですが、いくらビジネスチャンスとは言っても、校内に市場原理を導入しては、集団生活がダメになります。

次が**愛語**。愛情の愛にことばです。これが一番大事かもしれません。つまり、慈愛の言葉をかけ合いなさいと言うことです。慈愛の言葉とは、相手のことを慮った言葉です。例えば、朝会ったら、おはようという。早くても、遅くても、そんなことはどうでもよいよいのですが、おはようといわれると、かけられた方は気持ちがいい。沈んでいる人がいたら、元気かいと声をかける。こういうことです。例えば、腹痛を起こして、ベンチにうずくまっている人がいた。大丈夫かい、保健室に連れて行

こうか、こう声をかけるのは愛語です。そうではなくて、腹痛は自己責任だろう、お前なんかいてもいなくてもよい人間なんだから、ずっとそのままにいる、など言ったなら、よい集団は形成されません。

言葉の使い方は、集団生活では極めて大切です。この頃多いのが、言葉を、相手をやっつけるための道具として、武器として使う人です。言葉をピストルの弾の如く発射して、相手を倒れるまでやっつける。言葉で戦うなど言います。言葉に当たっても血が出ませんから、傷害罪は成立しませんが、ダメージはあるいは言葉の方が大きい。虐めなど言うのはそういうことです。言葉は本来、和解のための道具で、戦うための武器ではありません。相手を慮った言葉を使えということです。

最後に**同事**。皆で同じことを行うと言うことです。同じことを一緒に行うことによって、親しくなる。分かると思います。今日だって、こうして、一緒に入学式というものをやっている。やらなくてもよいのですが、こうして、一緒にいることによって、見ず知らずの人と違って、親しくなるのです。小学校で、放課後掃除を一緒にしました。子どもがやるより、清掃会社に頼んだ方が効率は良い。しかし、一緒に働くことによって、一体感が生まれるのです。皆さんも、このあと、オリエンテーション旅行に行きます。一緒にバスに乗り、飯を食べ、泊まることによって、集団としての一体感が深まるのです。

知らない人とでも、初めて会った人とでも、同じことを一緒に行うことによって、新しくよい人間関係が築けるのです。さらに言えば、むしろ、知らない人と、一緒に、同じことをする、あるいは、できる、そういった気持の持ち方に、同事ということの神髄があります。

以上、学校は集団生活の場であること、私たちは集団の中にあるのだということ、そして、四摂法について話しました。四摂法とは、他人のことを考えて行為をせよ、人に対して、心を開けということです。そうすれば集団生活はうまくいくし、その結果、得るものも多い。しかし、もし皆さんが、ここで述べたことが、奇妙に感じられるとしたら、それは、今日社会が一般に、自己中心的な個人主義に流れ、相手を引きずり降ろしてでも、少しでも上に行こうという競争主義にどっぷりつかっている、そして、皆さんも、その中で育ってきたと言うことです。集団、少し気取ってコミュニティなどとも言いますが、そこに生活することの意義を、ぜひ、考えてみてください。

ご静聴、ありがとう。